幼児礼拝2月①

真の父母様生涯路程③「試練に打ち勝ったお父様」

きょうのお話は「試練に打ち勝ったお父様」です。

真のお父様は、神の国をつくるために、伝道を始められました。伝道とは神様の愛とみ言を伝えることです。

　しかし、そのような、真のお父様をよく思わない人たちがいました。それは、神様が嫌いで、神様はいないと思っている人たちです。真のお父様はその人たちにつかまってしまいます。そして、「神様のみ言を伝えることをやめろ！」と言いながら、たくさん殴られたり、蹴られたりしました。真のお父様は、たくさんの血を吐かれて本当に死んでしまうかと思うほどでした。そのような中でも、真のお父様は、「天のお父様、心配なさらないでください。私はまだ死にません。こんなふうにみすぼらしく死んだりしません」と、強く祈られました。

また、ある時は、「興南」というところに送られたこともありました。そこでは、朝から晩まで、とても、つらい仕事をさせられました。「硫酸アンモニウム」という肥料の原料を袋に詰めて運ぶ仕事をしました。１袋が４０㎏もの重いものでした。これを１日、１３０袋運ばなければならないのです。 また、「硫酸アンモニウム」は、皮膚につくと痛みやかゆみがおこります。その袋を、たくさんたくさん運ばなければなりません。体中はとても痛くなりました。

それだけ、大変な仕事をしても、ご飯は本当に少ししかありませんでした。

スープは大根の葉が入った塩水です。そこで働く人たちは、あまりにもお腹がすいて、ごはんのために、たくさん喧嘩が起こりました。

そのような中でも真のお父様は、「ために生きる」ことを実践されました。真のお父様は、自分がお腹がすいていても、食事の半分を他の人に分け与えました。そして、喜ぶ人の姿を見ることで元気になったのです。真のお父様は、このように苦しい時にこそ、人を愛されたのです。

そして、最後は、アメリカやイギリスなど世界の16か国の国連軍が爆撃することによって、興南から解放されたのです。

 真のお父様は、どんなに苦しい時でも、親なる神様のことを思い、神様に喜んでもらうために歩んだのです。私たちも、そのように頑張りましょう！